

手をつなごう

平成18年12月5日
岡山県立東備養護学校
支援部だよりNO. 23

第4回備前地域特別支援教育 コーディネーター講座開催！ 11月29日

第1回から3回まで、主に子どもの見方のポイントについて勉強してきましたが、今回は「客観的な見方」ということで、アセスメント（WISC-III）について臨床心理士の安東節子先生にお話をいただきました。

検査の方法だけでなく、解釈の仕方や支援のヒントまで、事例をもとに演習形式で、大変分かりやすく教えてくださいました。

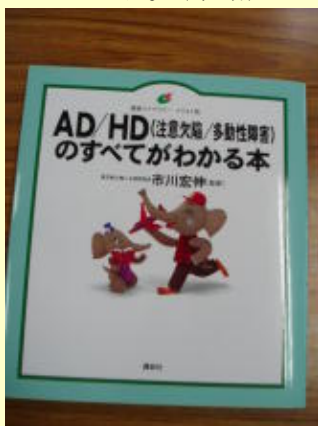


アンケートより

- ・結果の解釈の仕方やそこから読み取れる気づきや支援のヒントについて教えていただき、よく分かりました。検査することで子どもへの理解が深まり、さらに支援につなげていけるのは素晴らしいと思います。ただ、気になる子どもに検査をするには、保護者のハードルがかなり高いのが現実です。
- ・結果の見方を詳しく教えていただきありがとうございました。気づき、支援のヒントなどについての先生のお話も大変参考になりました。
- ・WISCというのは聞いたことはありましたが、結果の見方等分かりませんでした。今日は見方のポイントを教えていただき、勉強になりました。

お薦め図書コーナー ★読んでみませんか？★

「AD/HD（注意欠陥／多動性障害）」の症状のひとつです。それだけ多くの人が、お子さんの心のトラブルに悩んでいるのです。（中略）



不安を抱えて一人で悩まず、まずはこの本でAD/HDを理解してください。症状や治療法を正しく知ることで、保護者としてすべきことがみえてくるはずです。それはまた、子どもの生活態度に悩む、学校関係者にも読んで欲しい情報です。保護者と先生方が協力しあって、子どもが安心して暮らせる環境をつくっていけば、症状はおさまっていくはずです。

この本が、お子さんを悩みから救い、保護者の不安を解消するための一助になることを願っています。

前書きより

以前、東京都立梅ヶ丘病院（児童精神科の専門病院）を訪れた患者さんの、受診理由を集計してみたことがあります。その結果、いちばん多かったのは「落ち着きのなさ」、次が「興奮・衝動性」でした。いずれも、この本で解説している「AD/HD（注意欠陥／多動性障害）」の症状のひとつです。

「AD/HD（注意欠陥／多動性障害） のすべてがわかる本」

東京都立梅ヶ丘病院院長 市川宏伸 監修

講談社 税別1200円